

一茶ゆかりの里四季の俳句会（令和三年十月十二月分）

選者 高山俳壇 高野悠子 先生

特選天 梁黒き古民家カフェに風花す 岩手県 小山尚宏

一読しただけで静かな落ち着きあるカフェの情景が浮かぶ一句となりました。コントラストがすばらしい。

特選地 きのこ汁信濃訛を聞きながら 愛知県 細川みちえ

個有名で詠まれてないのはいわゆる雑草である。様々なきのこが入った「きのこ汁」がなんともうまそう。

特選人 さわさわと神々遊ぶ稲穂波 東御市 岩下恵美子

田の神様に守られ、今年も豊作に恵まれ一面黄金色に実った稲穂を渡る風、上五中七のフレーズが巧い。

入選 花鉢の土を戻すも冬仕度 群馬県 竹渕洋子

入選 冬天の微弱電波に耳澄ます 兵庫県 江藤隆刀庵

入選 緑啄木鳥のドラミング聴く森の朝 三重県 中川徳之

入選 山裾の水豊かなり今年米 愛知県 田上義則

入選 もみづるやゆつくりと訪ふ一茶館 岐阜県 村瀬幹枝

入選 初冬や寡黙で通すのも愉し 埼玉県 早乙女文子

入選 除夜の鐘果てて老舗の店仕舞 群馬県 北川寿子